

立教大学教会音楽研究所
2021年度秋学期 レクチャーコンサート

「ルネサンス音楽の精華」

2022年3月13日(日) 18:00~19:30

於・立教学院諸聖徒礼拝堂(立教大学・池袋キャンパス)

オンライン配信 2022年3月20日(日) 13:00~

ルネサンス期は、量的にも質的にも教会音楽の頂点を極めた時代と言えるでしょう。綺羅星のように居並ぶ作曲家、数多ある傑作の中から今回は、盛期ルネサンスを代表するジョスカン・デ・プレの『ミサ・パンジェ・リングア』とルネサンス後期に活躍したトマス・ルイス・デ・ヴィクトリアの『聖土曜日のためのエレミアの哀歌』を取り上げます。

『ミサ・パンジェ・リングア』はジョスカン・デ・プレ晩年の作で、均整のとれた構成と自在な書法は、ルネサンス様式の完成形として衆目の一致するところです。

『聖土曜日のためのエレミアの哀歌』は、パレストリーナを受け継ぎながら独自の和声的展開を見せる聖務日課のための曲集です。ヴィクトリアの音楽の表出力の強さがエレミアの哀歌に対する共感の深さを物語っています。キリストの受難に思いを寄せるこの時季にふさわしい音楽と言えます。

当日、チャペルで聴いていただくことが現時点(2022年1月末)では可能ですが、後日オンライン配信もいたします。いずれの場合も、メールでお申込みください。

講師・指揮 大島 博

(立教大学大学院キリスト教学研究科前期課程兼任講師
立教大学教会音楽研究所所員)

合唱 ジングアカデミー東京

演奏曲 『ミサ・パンジェ・リングア』

ジョスカン・デ・プレ

『聖土曜日のためのエレミアの哀歌』

トマス・ルイス・デ・ヴィクトリア

定員 60名(当日参加) 参加費・無料

※新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数を制限します。

※当日参加は定員になり次第、お申し込みを締め切らせていただきます。

オンライン配信でご視聴ください。

お申込み方法

当研究所のメールアドレス music@rikkyo.ac.jp
宛に、件名に「レクチャーコンサート」と明記し、
空メールを送信してください。折り返し、研究所
からお申込みフォームをお送りしますので、必要
事項をご記入の上、「当日参加」又は「オンライ
ン配信視聴」のどちらかにチェックを入れて返送
してください。

お問い合わせ

立教大学教会音楽研究所
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
Tel & Fax ; 03-3985-2786
E-mail ; music@rikkyo.ac.jp
<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/icm/>

※不在が多いので、メールまたは Fax での
お問い合わせを、お願いいたします。

お申込み締め切り

2022年3月9日(水)

<講師・演奏者プロフィール>

大島 博 (おおしま ひろし)

熊本県生まれ。中央大学法学部卒業後、東京芸術大学音楽学部声楽科に入学し、渡部高之助、高 丈二、中山悌一、原田茂生に師事。1986年東京芸術大学大学院在籍中にミュンヘン音楽大学に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。1990～91年、D. フィッシャー・ディースカウに師事。1995年東京芸術大学大学院博士課程を修了。宗教曲の分野で初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけ J. S. バッハの作品の演奏者として定評がある。近年は合唱指導者、発声指導者としてもその活動の幅を広げている。

ジングアカデミー東京

大島 博の呼びかけにより、19世紀ドイツで隆盛を誇った合唱音楽の研究、演奏運動に範を求め、さらに遠く「アカデミア(快樂)」の原義に戻って「歌う快樂(Singakademie)」を追求しようと2009年に発足。各人が自立した音楽家として作品に取り組み、自由な雰囲気の中で有機的なつながりを持つ集合体として、完成度の高い音楽を作り上げることをめざしている。これまでに、H. シュッツ『マタイ受難曲』、F. リスト『十字架への道』、『ミサ・コラーリス』、H. ディストラー『クリスマス物語』、F. マルタン『二群の四声合唱のためのミサ曲』、H. ハウエルズ『レクイエム』、J. マクミラン『ミゼレーレ』など、比較的演奏される機会の少ない作品を演奏してきた。また、J. ブラームス『ドイツ・レクイエム』、A. ドヴォルジャーク『スターバト・マーテル』のオルガン伴奏の上演により、楽曲へのより細やかなアプローチを試みている。

